

TAMAらいふ21 神楽と雅楽の祭典



高千穂神楽

今年が多摩地域が明治二十六年に神奈川県より東京府に移管されて、ちょうど百年と言う記念すべき年に当たり記念事業「TAMARAらいふ21」神楽と雅楽の祭典が御岳山・長尾平の野外特設会場で開催された。日本三大神楽と西多摩地区の郷土芸能が一同に集い十月十五・十六・十七日の三日間一大競演が行われた。

当神社に伝わる太々神楽も連日舞われ、御岳山をおとずれた行楽客の親子連れも神楽、雅楽、舞楽、獅子舞、囃子と日本の民俗芸能を満喫していた。

高千穂神楽・石見神楽・備中神楽

九月十三日、十四日に

雅楽講習会

当神社の雅楽講習会は、九月十三日と十四日の両日、副島昌俊氏、柴田直宏氏、鈴木治夫氏を講師に迎え行われた。

雅楽講習会は、暫く途絶えていたが、昭和五十四年に再開され、今年で十五回を数える。

十三日、午前九時より開講奉告祭が執り行なわれ、各管別の教室にわかれた。受講生は、十四名。今回は祭祀奏楽の他に公開雅楽、出張雅楽が数回予定されていたため、多くの課題曲が

祭式講習と禊研修会

全国神道青年会々々長でもあられる篠直嗣先生を講師に迎えて、十月十八、十九、二十日の三日間、祭式講習会と禊行法の研修会が、行なわれた。参加者は早朝午前六時より約二キロメートルはなれた綾広の滝に向い山女魚の住む、澄んだ滝壺での禊行を行った。昼間は、神社祭式同行事作法と出張祭典を中心とした研修を行い、デイスカッションも熱心に行われた。夕方五時半、幣殿にて、大祓行法、静寂なる山上に二十五名が宣る大祓詞が、響き渡る。三日間の研修



の後、閉講奉告祭、篠先生をお囲みしての、直会がなごやかに行われた。

用意された。吉越調の賀殿急と酒胡子、平調の五常急と陪臚、雙調の賀殿急と胡飲酒破、太食調の傾盃急、舞立で陵王一具と長慶子。  
十四日午後より、課題曲全曲を演奏そのものに合奏を行う。その後、閉講奉告祭を執行し、全日程を終了した。

あとがき

式年大祭を期にして社報「武州みたけ」を創刊することと致しました。

発行にあたって、石川要三先生、三橋健先生より玉稿を賜わり感謝申し上げます。

今後とも年数回発行の予定ですので皆様方のご講読を賜わりたく、あわせてご寄稿をお待ちいたしております。(片柳)

平成五年十一月十八日発行

編集 武蔵御嶽神社

印刷 (株)成和印刷

〇四八七〇八五〇〇

〔非売品〕

表紙写真 埼玉県和光市 末棟義彦